

# 2024 「ことばの森教室」第2回優秀作品紹介

< 中学校 1 年生 > 作文課題「社会に目を向けよう」

1 - ① 「高齢社会 私たちにできること」

先日、学校で少子高齢化について学んだ。2 学期に老人ホームへ訪問に行くからだ。少子高齢化は、社会問題の一つである。よく聞く言葉ではあったけれど、あまり深く考えたことはなかった。しかし、わたしの親、そして私自身もいつかは高齢者になる。そう思った時、これから私たちに何ができるのだろうかと考えた。

1 学期に、1 年生で高齢者疑似体験をした。高齢者は目が見えにくくて、視野が私たちよりもとても狭い。簡単な動きでも、すぐに疲れてしまう。メガネや杖を持っていても危険なので、手すりや階段ではなくスロープがあったら良いと思う。

幼稚園の頃、老人ホームに行ったことがある。歌を披露して、とても喜んでくれた。その後、お手玉やあやとりを教えてもらった。お年寄りも、ずっとニコニコしていて優しく、私の方が元気ももらった気がした。私のおばあちゃんも今老人ホームで過ごしている。そして車椅子で生活しているようだ。今まで長い間頑張ってきた優しい高齢者に、住みよい環境作りをすることが、今後の大きな課題だと思う。

子どもよりも高齢者がたくさんいる現代社会の中で、住みやすい環境や社会をつくっていくこと、それが今の若い人達に出来る仕事ではないかと思う。今大切なのは、周りにいる高齢者のことを考えてあげることだと思う。高齢者に感謝の気持ちを伝えながら、そして高齢者と共に過ごせる世の中になっていると良いと思う。

1 - ② 「海は油断大敵」

夏休みに入って度々報道されるのが、水難事故。海は急に深くなる場所があったり、ゴツゴツした石が散らばっていたり、危ない場所は様々だ。そこで、海水浴に行った時に注意することや大切なことを考えてみる。

ある日、中学生の子が幼い妹を助けようとして亡くなってしまった、という事故のニュースを目にした。すると、一緒に見ていた家族がこんなことを言った。「溺れている人を見つけたら、周りの人に助けを求めればいいのに。」と。私には、小学2年生の弟がいる。もし海に行って、弟が溺れてしまったら、冷静に助けを求められるだろうか。助けなければという一心で、海に飛び込んでしまうと思う。今は仮定の話だけれど、実際に起こってしまったら、そうになってしまうと思う。そうなったら遅い。親が子どもから目を離さない。子どもだけで海に近寄らない。浮き具などの道具を使う。危ないと感じたら、冷静になって息のできる体勢になる。無理せず遊ぶ。私の家では、このようなルールを決めている。家族でルールを決めておけば、溺れる可能性はぐんと減ると思う。

海はとても美しい場所だけれど、ちょっとした不注意で溺れてしまう。そうならないために、事前準備をちゃんとする。そして海に入ったら、広い視野を持ち、危ない場所には近寄らず、溺れていた困っている人が周りにいたら、すぐに大人の助けを求められるようになりたい。

## 1 - ③ 「安全に楽しく」

最近、ニュースや新聞を見ると「水難事故」という言葉を目にする。川や海、プールなどで溺れたり、流されたりする「事故」だ。その事故による死亡者が、残念ながら多くなっている。

夏になると、海やプールに行く人が多いだろう。それと一緒に水難事故も年々増えてきている。大人が事故に遭うこともあるが、特に多いのは子どもだ。小中学生やそれ以外の子どもなどの被害が多くなっている。私もプールへ行った時に、溺れそうになったことがある。しかし、大事にならずに済

んだ。なぜなら、周りに大人がいたからだ。一人で解決しようとするのは難しいが、信頼できる大人がいることで助かることもある。また、落ち着いて行動したから助かったということもある。だから、いざという時は、あわてずに落ち着いて行動するのも必要だと思う。

水難事故を減らしていくために、まずは海や川で遊ぶ時は、注意をはらって遊ぶようにする。また、子どもだけでは遊ばずに、見守る人が近くにいる。大人などが見えるところで遊ぶようにする。そして、遊ぶ場所をよく考える。流れが強いところや水の量が多いところでは遊ぶのを控える。このようなことに注意することで、楽しく安全に行えると思う。私も、夏休みにプールなどに行くことがあるから、そのような時には水の事故には十分に注意して安全に遊び、楽しく過ごしていきたい。

#### 1 - ④ 「水の危険性」

「小学生が中学校のプールで溺れました」というニュースを聞いた時に、先生や子どもたちは何をして、どう動いていたのかと疑問に思った。人数が多い学校なら、たくさんの先生で見っていたことだろう。私の学校では、人数が少ないが、3人ほどの先生が見ていてくれる。子どもたちでも、2人のグループを作り、隣にいるか確認し合っている。そう考えたら、事故の起きた学校ではどんな対策をしていたのかと思った。

最近の時期は、水による事故が起きやすい。川や海だけでなく、プールでの事故も多い。私もよく川に遊びに行く。その時は、一人ではなく最低でも2人以上で行ったり、深いところには行かないなどの対策を取っている。出かける時は、必ずどこの川に行くかを家の人に伝えるし、親や祖父は毎回「気をつけろ」と声をかけて、少したったら見に来てくれる。それは、水の事故ではすぐに死んでしまったり、その場から消えてしまったりする。たくさんの危険があるのに、大人や先生がきちんと見られないなら、川遊びやプールをやらない方がいいと思った。夏の子どもの楽しみをなくしてしまうのが、安全のためなら仕方がないと思う。でなければ、また悲惨な事故が生まれてしまう。

水による事故は、なくすことはできないかもしれないが、もう悲惨な事故を生まないためには、一人一人が気をつけたらいいと思った。

< 中学校 2 年生 > 作文課題「最近のニュースから」(\*今回は該当作品無し)

< 中学校 3 年生 > 作文課題

「『親ガチャ』という言葉について、どのように感じ、どのように考えているか」

### 3-① 「自分次第」

「身長が低いから～」 「お金がないから～」 ニュースを見ていると、このような親ガチャ失敗談をよく耳にする。聞いていると、薄っぺらい内容しか出てこなくて、結局は自分次第という言葉に尽きる。例えば、頭の良さやお金をたくさん持っているかなどはよくあげられている。しかし、本当に親のせいと言ってしまってもいいのか。

私は絵が好きで、絵を描いている。でも親は描いていないし、得意でもない。私の絵は上手だと友人に言われる。これは、私が努力をして得たものである。親が得意ではないから、子どもの私も得意ではないということはない。頭の良さ、進路にしても自分次第である。確かに、世の中には本当の天才だっている。でも努力をして諦めなければ、食らいつくことはできる。

親ガチャとは、結局自分がどう思うかだと思う。シングルマザーでも幸せな家庭はある。金持ちでも肩身が苦しいところもある。視点を変えて、親ではなく自分自身を見つめたい。頑張れば東大だって行けるかもしれない。親の人生ではなく、自分の人生に何か欠点があっても、親のせいにして自分の人生を捨てたくない。それを自分の長所として捉えたい。誰かのせいにするのではなく、自分のせいにして、自分がどうにかするべきである。

### 3-②

#### 「親ガチャは捉え方次第」

確かに親ガチャは存在する。子どもは親を選べない。しかし、親によって人生の全てが悪い方へ左右されるとは限らない。

世の中の親は十人十色だ。厳しい親、一度も怒らない親、高学歴の親、運動好きの親。色々な親がいる。私の親は厳しい。テストの点数や日常生活など、細かく怒られる。「これくらいいいじゃん」と言いたくなる時もある。しかし、悪い影響ばかりではないのも事実である。私の父は野球、母はソフトテニスをやっていた影響で、三兄弟全員がどちらかのスポーツを行っている。また、両親とも医療に携わっていて、私も「医療関係の仕事に就きたい」と、憧れを持っている。親に言い返したいこともあるけれど、目標やきっかけを与えてくれるプラスの面もある。

また、必ずしも親が言ったからその通りにしなければいけないということはない。現在、志望校を考えている。その時、「自分はこうしたい」という意見を強く伝えるようにしている。大切だと思うことは、自分の意志を持つことだ。思いを伝えると、親は意見を尊重してくれる。福沢諭吉は、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という名言を残している。親にもいいところと悪いところはある。これを踏まえた上で、人は平等なのだと思う。考え方次第で、親ガチャの捉え方は変わるはずだ。

### 3-③

#### 「親ガチャについて」

「親ガチャ」という言葉は知っていたが、意味はよく分からなかった。調べたところ、「自分の生まれ持った環境、容姿、親によって人生が左右されること」だった。親ガチャなんて、ただの言い訳だ。努力したくない人にとって、都合の良い言葉だ。いや違う、生まれた環境、容姿、家柄、親に不

満を持ち、悩み、いじめに繋がってしまうことも実際にある。いくら努力しても我慢しても、解決しないのだ。だが反対に、今の生活に満足し充実した人生を送れることもある。私は後者だ。お金にも困らず、交友関係にも恵まれ、親のことも大好きだ。一つ体験談として、親の影響は大きいと感じたことがある。生まれた時から、親は子にとって模範なのだ。話す言葉、態度、考えや好きな物、全ては身近な人を真似ることから始まる。口癖も真似る、好きなアーティストも同じだ。親が頑張っているから努力しよう、だらだらしていたら親に申し訳ない。

周りの環境は、自分自身に大きく影響する。悪い方だけでなく、良い方にも。良い方に着目して、悪い方に傾かないようにする。簡単なことではないが、気持ち次第で変えられるはずだ。そう信じて、これから周りを言い訳にせず、自分の人生を豊かにするために努力できる人間になりたい。そして、周囲に良い影響を与えられる人になりたい。今悩みを抱えている人にも、希望を失うことなく常に前を向いて頑張ってもらいたい。

### 3 - ④ 「親ガチャについて」

「親ガチャが外れた」これは、自分を生んでくれて元気に育ててくれている親に失礼な言葉だ。また、自分に原因はなく親に原因があるという主観的な言葉でもある。本当に自分に原因はないのか。

そもそも、ゲームのガチャにも外れはある。しかし外れても地道に進めていけば、クリアできるものがほとんどだ。つまり、人生をゲームだとすると、「親ガチャに外れた」としても、自分の人生が良いものになるよう努力をして変えていけば、人生ゲームをクリアすることは可能なのだ。努力をしないで親を理由にするのは、ゲーム内で勇者が敵から逃げることと同じだろう。

「親ガチャ」について、落ち着いて考えてみた。ネガティブな言葉だと思うだろうか。ポジティブに考えてみる。外れたと思う場合、親の意見を聞かずにこれから先のことを自由に決めることができる。判断力がつき、物事をすばやく行えるようになる。成功したと思う場合、親も子も幸せに生活を

していて、周りに憧れられているかも知れない。

どのように捉え考えるかは、人それぞれでよい。ただ、ネガティブに捉えたのなら、一度ポジティブに考えてみて欲しいし、ポジティブに捉えたのなら、ネガティブに考えている人もいるということをお忘れなくでいて欲しい。

### 3-⑤

#### 「無題」

「親ガチャ」という言葉に、あまり良いイメージを持っていない。この言葉に理解を示す人の多くと同じように、自分の親に対して不満を抱いたことが何回かあるが、その感情はあまり周囲に出し過ぎてはいけなさと考える。

そもそも不満は、恐らくどんな人にも、どんな人に対しても起こりうる感情で、感じたことのない人はほぼいないと言っていいだろう。そう感じる理由は、主に不満の対象から受けるイメージだと私は考えるが、それ以外にも自分自身や周りの環境に原因があるとも言える。自身がつくる原因の例を挙げると、反抗期であったり、対象に苦手意識を持ってしまって、そのイメージが離れないといったものがある。周りの環境の原因では、友達などが他人を苦手としているという話を聞いて、自分もそれに合わせてしまったり、自分の満足する生活ができなかったりするといった理由が挙げられる。

しかし「親ガチャ」に外れたと思っても、「当たり」に変えられるのではないかと。もし原因が思いこみなら、直していくことが大事で、家庭環境に問題があるのなら、少しずつ努力して変えていくことが重要だ。人間に根付いてしまった感情を、すぐに変えることは簡単ではないが、一步一步改善することはできる。また、親ガチャを前向きに捉え、世界に数多くいる内の親と出会えたことに感謝していきたい。

### 3-⑥

#### 「人生は自分次第」

理想の親とは、いつもほめてくれ、話をよく聞き、優しく接してくれる親である。どんな時も構ってくれる親。しかし、実際はそううまくはいかない。

近年、親からの虐待で幼い子どもが亡くなってしまいう事件をよく耳にする。親が子どもに虐待をする理由の一つが、しつけのためである。「子どもには痛い思いをさせないと学ばない」と考え、子どもを適切に受け入れられないということが原因であるそうだ。そんな時、小さな子どもはなかなか親に反発的になれず、また誰かに助けを求めることは難しい。このような家庭に生まれた子どもは、自分の道を自由に選ぶことができない。「親ガチャ失敗」と言えるだろう。

だが、私は自分の道を選ぶことができる。例えば美味しいご飯が食べられ、自由に遊ぶことができ、自分の考えを発言できることなどがある。このように、何かに縛られずに様々なことが自分の意志でできている。こんなにも自由な生活ができていても、やはり人生にはうまくいかないことはある。そんな時、自分で考えなければならない。なぜなら、私には自分の人生を自分で決める権利があるからである。

いつまでも、親に甘えてばかりではいけない。自分が進むべき道は、自分で切り開こうとすることが、人生をより良くするために必要である。うまくいくかどうかは、自分次第なのだ。

### 3 - ⑦ 「親ガチャ失敗なんて言わせない」

「ああ、うちのお母さんと入れ換わって欲しいな」みんなも一度はそう思ったことがあるだろう。「親ガチャ」という言葉がはやった。決して良い意味ではない。しかし、親ガチャ失敗という人達は、生まれてきた環境にとらわれたままの人生なのだろうか。今の日本には十分ではないかもしれないが、子どもたちへの様々な支援や制度がある。

私の母は、高校生の頃に父親を亡くし、経済的に苦しくなったそうだ。そのため、大学に進学する際、奨学金をもらっていたそうだ。母の姉たちも、奨学金と授業料免除の制度を使って学生生活を送

っていた。家庭の事情があって授業料などが払えない学生達が、夢をあきらめず学びの場をつくること  
ができる。親から暴力を受けている子どもたちの逃げ場。調べてみると、児童養護施設や里親制度  
などがある。しかし、複雑なシステムや内容で、子どもだけでそれを利用できるとは思えない。だか  
ら、そのような制度を親にも子どもにも身近になり、多くの人が利用することで「親ガチャ失敗」を  
改善できるようになるはずだ。また、子どもをサポートするものが、更にたくさんつくられ、子ども  
たちの未来に夢や希望をつくってほしい。

私も一度「あの家の子になりたかったな」と思ったことがあるが、普段の生活を当たり前と思うの  
ではなく、日々親が働いてくれていることに感謝して過ごしていきたい。

### 3-⑧ 「自分の力で幸せな人生を切り開いていける社会へ」

流行語にもノミネートされ、話題になった「親ガチャ」という言葉。上手くいかないことを親のせ  
いにする言葉だ。「親ガチャ」という言葉の軽さから賛否両論あるが、昔から言われている「子ども  
は親を選べない」と本質は同じではないだろうか。子どもは生まれ育つ環境を選ぶことはできず、生  
まれた時から格差はあるのは周知の事実だ。ではなぜ、「親ガチャ」という言葉はこれ程反響があっ  
たのか。

従来「子どもは親を選べない」は、貧困や親から虐待を受けているような厳しい環境に置かれて  
いる子どもを表す言葉だろう。それに比べて「親ガチャ」という言葉はあまりに軽く、甘えであり、  
大人になったら自己責任だと思う。

若者がこのような言葉を生み出した背景には、「格差社会」があり、それだけ深刻化しているとい  
えるのかも知れない。「格差社会」とは社会問題の一つで、収入や財産を基準に、人間社会が階層化  
されて、今いる階から別の階への移動が難しくなっている状態のことだ。スタートラインが違っても、  
全ての子どもが生まれた家に関係なく、自分の力で幸せな人生を切り開いていけるような社会にする

ことが課題だと思う。私も「親ガチャ」という言葉のせいにするのではなく、自分の幸せやしたいこと、なりたいものは、自分の力でつかみ取りたいと強く感じた。

### 3 - ⑨

#### 「きれいな言葉」

ある日、SNSを見ていたら「親ガチャ」という言葉を目にしました。その動画は、不登校の子を部屋から引きずり出した動画でした。コメント欄には、「環境が大事」「子どもが可哀想」などたくさん批判コメントがありました。その中でも一番多かったのは、「親ガチャ失敗」という言葉でした。このコメントは、この動画に限らず、お母さんがお弁当を作っている動画にもありました。

私は「親ガチャ」という言葉が嫌いです。みんなそれぞれ親がいたりする中で、嫌なことがあると思うけど、ここまで成長できたのは誰のおかげなのかを考えるべきだと思います。仮に私が不登校で、引きずり出そうとする親がいても、「親ガチャ失敗」だとは思いません。どんなに嫌なお弁当とか彩り悪いと言われても、「親ガチャ失敗」だとは思いません。早い時間から作ってくれることに感謝します。親とは合わないんだと思うだけです。

今の子は、脳がゲームに支配されてしまったんだと思います。スマホゲームのガチャを利用し、嫌なことがあったらすぐに「親ガチャ」というところが、本当にダメなんだと思います。人への感謝を忘れてるんだと思います。してもらうことを当たり前にするのは、ダメだと思いました。親ガチャという言葉はいらないし、あってほしくない言葉だと思いました。

### 3 - ⑩

#### 「前向きに人生を」

もともと人生は不平等だ。しかし、人はそれぞれ違うのが当たり前なのだ。この事実を受け入れて生きていくほかないのだ。

嘆きの文句として「親ガチャ」という言葉がこの数年広く使われるようになった。生まれ持った容

姿や能力、家庭環境等によって人生が大きく左右され、「生まれてくる子どもは親を選べない」ことを指している。この言葉が流行る背景には、現代社会における格差の拡大や、個人の努力で全てを解決できるという幻想への反発などがあるのかもしれない。その中で、貧困による教育格差は問題の一つと言われている。日本では、9人に1人の子どもが貧困状態にあり、貧困により学力不足を引き起こし、精神的に未成熟なまま大人になってしまう場合も少なくない。確かに、生まれた環境によって与えられた機会には差があることは事実だ。しかし、人生の全てが運任せではない。環境に恵まれたとしても、それに甘んじて努力を怠れば、何も成し遂げられない。自分の努力次第で状況を打開することは可能なはずだ。大切なのは、与えられた環境に囚われず、自分が何を成し遂げたいのか、どのような人生を送りたいのかを明確にし、その目標に向かって努力することだ。

私は、運も味方につけて、これからも努力し続けたい。その過程で様々な困難に直面しても、諦めずに前向きに挑戦することができれば、必ず道は開けるはずだ。

### 3 - ⑪

### 「人生は無限大」

「親ガチャ」この言葉を知ったのは、メディアである。テレビでもスマホでも、自分の実体験を話している人の口から聞いたことがある。親ガチャを初めて聞いた時は、親に対して失礼な言葉だと思った。

私は今まで、親ガチャが外れたと思ったことはない。時に腹が立つこともあるし、理不尽だと思ったこともある。でも、「支えてくれる」一番肝心な時に側にいてくれる。このことだけではないかもしれないが、今の両親で良かったと心の底から言える。でも世の中には、親ガチャ外れという人もいるだろう。子どもを使って自分の好きなことをする親、虐待や差別この他にも色々な事情を抱えている人がいて、親を憎む人だっている。親を憎むことは間違っていないし、運によってこの家に生まれてきたのだから、大切に育てて欲しいと思っている人は多いと思う。しかし、自分の人生、親が全て

ではない。もちろん血は繋がっているのだから、関わらないことはない。でも、自分の夢があって、やりたいことがあるなら、それは自分自身の力だと思う。

「親ガチャ」この言葉は、自分の才能を殺しているのと同じだ。もちろん、辛い事情がある人もいるけれど、親ガチャが外れたから自分の将来は悪いものだと思っている人もいるだろう。しかし、私たちの人生はこれから。自分の人生は、自分で切り開くものだ。親が全てだとは思わず、自分を信じて生きていきたい。